

- ちょっと小金原 #3 -

高齢者にやさしい街づくり

小金原地区社会福祉協議会 会長

なかむら けんいち
中村 建一

私が小金原に住んだのが昭和39年、43年前のことになります。その後、41年に転勤で名古屋、大阪へ 昭和48年に7年ぶりに戻って来ましたが、駅は新駅に替り、千代田線が乗り入れ、団地は完成し、バスは10分ごとに走り、大変な変貌に驚きました。昭和44年が団地の入居開始、根木小、栗小開校、昭和45年栗中開校、46年小金原団地完成ですので、この頃、おおむね今の姿が出来上がっていたといえます。

当時、30才半ばの中堅社員が、40年経った今、街頭で70才代の紳士淑女として多く街頭でお見掛けするようになりました。少子高齢化は着実に進み、松戸では常盤平団地について有数の高齢化地域になっています。

幸せそうに散歩される老夫婦の姿が何時までもつづくように対策をたてる必要があります。さいわい、国土交通省と厚生労働省が「在宅、長寿の我がまちづくり事業」のモデル地区に指定してくれました。その一環として、地区社会福祉協議会では「思いやりベンチの設置」を提唱しています。さいわい、市長がモデル地区のアンケートにベンチ希望が多いのに着目されて、今、小金原を散歩のモデル地区にしようと、市と話し合いを始めました。新しいベンチを模索する毎日がつづいています。実はこの提唱は昨年からしていましたが、自転車がぶつかってケガが心配だと市も警察もバス会社もよい顔をしなかったのです。市長が着目していただいて情勢は変わりました。高齢者ができる限り住み慣れた地域で暮らしつづけるために、散歩の時の休憩場所がどこにもある「思いやりベンチ」で小金原を一杯にしたいと思っています。おやじの会の皆さんもお知恵をかしていただきたいと思っています。